

船舶の成聖祈祷

輔司誦

君や、祝讃せよ。
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。
天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

司誦

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。
蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。

主憐めよ(三次)。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
来たれ、我等の王神に叩拝せん。
来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。
来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第百六聖詠

主を讃栄せよ、蓋彼は仁慈にして、其隣は世世にあればなり。主に救われし者は此くの如く云うべし、即主が敵の手より救ひ、各地より集め、東より西より北より海より集めし者なり。彼等は曠野に、人なき途に徃ひ、人の住える城邑に遇わざりき、飢え且渴きて、彼等の霊は其内に消えんとせり。然れども其憂の中に主に呼びたれば、主は彼等を其患難より脱し、彼等を直き途に導きて、人の住える城邑に往かしめたり。主を其隣と、其人の諸子の為に行いし奇迹に縁りて讃栄すべし、蓋彼は渴ける霊を満たせ、飢うる霊を善き物に飽かしめたり。彼等は闇冥と死の蔭に坐し、憂と鐵に縛られたり、蓋神の言に従わず、至上者の旨を輕んぜり。主は苦勞を以て彼等の心を降せり、彼等蹶きて助くる者なかりき。然れども其憂の中に主に呼びたれば、主は彼等を其患難より救ひ、彼等を闇冥と死の蔭より引き出し、其縛を截てり。主を其隣と、其人の諸子の為に行いし奇迹に縁りて讃栄すべし、蓋彼は銅の門を破り、鐵の柱を折けり。不智なる者は其不法の途と其不義の為に苦めり、彼等の霊は凡

の食を厭ひ、彼等は死の門に近づけり。然れども其憂の中に主に呼びたれば、主は彼等を其患難より救ひ、其言を遣して彼等を癒し、彼等を其墓より脱せり。主を其隣と、其人の諸子の為に行いし奇迹に縁りて讃栄すべし、讚美の祭を彼に献じ、歌を以て其作為を宣ぶべし。舟に乗りて海に浮び、事を大水に行う者は、主の作為を見、其奇迹を淵に見る、彼言えば、暴風起りて、高く其波を騰ぐ、天に升起、淵に降り、彼等の霊は患難に因りて消えんとす、彼等は轉び且揺らるること醉える者の如し、其悉くの智慧は消ゆ。然れども其憂の中に主に呼びたれば、主は彼等を其患難より引き出せり。彼は狂風を變じて平穩となす、波は平なり。彼等其靜なるを樂む、主は彼等を携えて其望む所の埠に至らしむ。主を其隣と、其人の諸子の為に行いし奇迹に縁りて讃栄すべし、彼を民の会に尊崇し、彼を長老の会に讚美すべし。彼は河を變じて野となし、泉を變じて槁壤となし、豊なる地を變じて鹵の地となす、此に住む者の不虔に因りてなり。彼は野を變じて池となし、乾ける地を變じて泉となし、餒うる者を彼處に居らしむ、彼等は住居の為に城邑を建て、田に種を蒔き、葡萄園を作り、多く其実を得るなり。主は彼等に福を降し、大に彼等を増加せしめ、彼等の家畜をも減

輔 詠

らさず。迫害と苦難と憂患によりて、彼等滅ぜられて衰えたり、主は辱を牧伯に被らせ、其路なき野に徨うに任す。惟貧しき者を患難より引き出し、其族を羊の群の如くに増す。義人は之を見て悦び、凡の不法は其口を塞ぐ。智なる者は此を鑑みて主の憐を悟らん。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光栄は爾に帰す。(三次)

主に祈らん。

主憐めよ。

祝 文

司

主我等の先祖の神、爾の僕ノイに、世界の救の為に舟を造るを命じ、其多くの木より組み立てられて一の木と為るを嘉し、親ら甘んじて靈なき木を司り、及び有能の手を以て人類を救う萬有の主宰や、今も主や、爾親ら此の船を護り、此に平安の善神使を與え、此に乗りて航海する者を守護し、恒に彼等に壮健にして往復するを得せしめ給え、至浄なる我等の女宰生神女永貞童女マリヤの祈と、

詠

生命を施す尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光栄なる聖預言者・前驅・授洗イオアン、光栄にして讚美たる聖使徒、聖(某)、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の轉達に因りてなり、蓋我等の神や、爾は一切を掌り、及び聖にする主なり、我等光栄・感謝・伏拝を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世にアミン。

詠

司 此の船(舟)〔某〕は、此の聖水の灌がるるを以て降福・成聖せらる、父及び子及び聖神の名に依りてなり。(三次)
アミン。(毎時応答する)

※(司祭は、船(舟)に聖水を灌いで謂う。)

※(もし、船全体に聖水を灌ぐ時は、左のトロパリを歌いながら廻る。)

トロパリ (第一調)

主や、爾の民を救い、爾の業に福を降せ、我が国に福を與え、爾の十字架にて、爾の住處を護り給え。
(必要に応じて繰り返し歌う。)

輔 睿智。

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠 ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

司 ハリストス神我等の恃や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。

詠 光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ (三次)。
福を降せ。

司 ハリストス我等の眞の神は、その至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒

日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

詠 アミン。

幾歳も

輔 主や、今此處に立ちて祈る爾の僕 (婢) 「某」に、萬福にして平安なる度生、壮

健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼 (等) を幾歳にも護り給え。
(三次)

※(司祭は、聖十字架に接吻させる時、彼(等)に聖水を灌ぎ祝福する。)